



KYODO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2022



INDEX

和のこころ . . . 02

TOPICS

地域包括ケアを担う病院
青森市立浪岡病院
大崎市民病院鳴子温泉分院
[一般病院・新築 2 例] . . . 03

市街地に建つ大規模精神科病院の
敷地内全面建替え
浜寺病院
[精神科病院・全面建替え] . . . 05

WORKS

医療福祉センター倉吉病院
[精神科病院・増築, 改修] . . . 07

三善病院
[精神科病院・増築, 改修] . . . 08

万葉クリニック
[精神科病院・改修 (児童思春期外来)]
. . . 09

COLUMN

共同建築設計事務所と SDGs . . . 09

NEW MEMBERS

私の建築家像 . . . 10

和のこころ

代表取締役 鈴木 慶治

昨年の今頃、新型コロナのワクチンが日本にも供給されはじめ、パンデミックは終息することを期待していましたが、いま現在はオミクロン株の発現により世界的な規模で感染が再拡大しています。日本もその対策には右往左往しましたが、感染作用の基本行動「三密回避」「手洗い励行」「マスク着用」の重要性が浸透しているためか、幸いなことに世界的に見てもまれな落ち着きようで、新たな年を迎えられそうです。

人はひとりでは生きてはいけないことを自覚し、隣人に迷惑を掛けない。自己主張することより「和をもって尊しとする」精神が古代から根付く日本人ならではの生きざまは、こうした命に係わる究極の場面で生きてくると感じ、改めて誇りに思うところです。

建築設計事務所は全国で10万を超え、コンビニをはるかに超える数がひしめいています。その中で生き抜いていくためには、自己主張をして、他者との違いを明らかにし、自分たちを選択していただく必要があります。当たり前と思われていた建築の在り様を見直し、これまでに見たこともないデザイン・空間づくりで自己主張する方法もあります。しかし、私たちはその名の通り「共同」でその対象を十分観察し、お互いの知見・経験にもとづく主張を尊重しあい、その中から最適解を探すために、提案を磨き続けることを続けてきました。「共同」の対象はクライアントの皆様でもあり、協力事務所や施工者の皆さんでもあり、我々スタッフ同志でもあります。結果が出るまでには時間もかかり、苦勞も多く、決してスマートなものづくりのスタイルではありませんが、できるだけ多くの人が納得のいく取り組みを大切にしています。

改めて「共同建築設計事務所」の精神は「和のこころ」に基づいているのだと自覚し、これまで積み上げてきたことを大切にしながら、精進を続けたいと思います。

それでも建築はその土地に根付き、施主の個性、思いが反映され、我々のデザインがのせられることで十分個性的な存在になります。その結果が特別な建築作品となり、多くの人を豊かにし笑顔にできるものと信じています。

しかし、このパンデミックによりそれぞれの距離が少し離れてしまったことで、これまでのような豊かなコミュニケーションの場が失われたことも事実です。Web会議の技術が進化し、これを補完することができるようになりましたが、それでも実際の距離感は埋めがたいものがあることも感じています。この事実を受け止め、内面を鍛えようとすると、新しい支えあいのすべを探して、皆さんと共に豊かな未来づくりに挑戦を続けたいと思っています。

本年も、皆様のご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(2021年12月21日)

地域包括ケアを担う病院 —青森市立浪岡病院・大崎市民病院鳴子温泉分院—

人口減少や高齢化が急速に進む中、多くの公立病院で再編の動きが加速しています。特に地方の病院では、地域の方が住み慣れた場所で安心して生活するために必要な医療を、継続的に提供するため、地域の病院のネットワーク機能を再編・強化し、介護を含めた地域包括ケアシステムの中で病院を再構築する計画が中心になっています。

本 TOPICS では 2021 年に竣工した 2 病院について、再編にあたっての計画の要旨をお伝えします。

自然に開き地域とつながる ホスピタルモール

—青森市立浪岡病院—

旧浪岡町の町立病院として誕生した浪岡病院は、青森市と合併後、青森市の病院群と機能分化・連携を図りながら、在宅医療・地域包括ケアシステムの中核を担う病院として建替えられることになりました。

建替えにあたっては、受診・入院機能、救急医療・災害時病院機能の維持、そして医療連携体制の強化が目的として示されました。

■患者・利用者に優しく、職員が働きやすい施設

広場に面してガラス張りのホール・モールを配置する事で、中の様子が分かり、近づきやすく入りやすい施設としています。平屋で計画し、誰にでも優しく、安心できる施設としました。

診察や検査等、どこに行くのにも見通しの良いモールからアプローチする事で、分かりやすく迷わない施設としています。

■地域に愛される病院

ホールは、広場に面して開放できる構造で、内外一体の運用が可能です。気候の良い時期にはイベント等を通して、地域コミュニティー形成の役割も担います。内装には青森ヒバやねぶた和紙など地元産の建材を多用し、地域の記憶を継承する事を目指しました。



青森市内と大崎市内の主な医療施設



モールと病棟に囲われた広場（工事中のため一部 CG 合成 病院ホームページより）

■将来への可変性

設計時、将来介護施設への転用の可能性が示され、平屋の採用はその解決策の一つでもあります。共用スペースの一部を改装する事で、独立した玄関が確保でき、診療部門と動線が交わらない運用を可能にしています。4 床室は個室に変更することを視野に入れて計画しました。（図 1）

開院後、IoTを活用した「オンライン診療」「見守りサービス事業」などがスタートしました。地域包括ケアシステムの進化・変化に対応できる柔軟性が建築にも求められています。

□建築概要

建築主：青森市
所在地：青森県青森市
病床数：35 床
構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地上 2 階
延床面積：4,023㎡
竣工年月：2021 年 5 月
撮影：外観のみ病院のホームページより
その他所員



地元の木材を使用したホスピタルモール

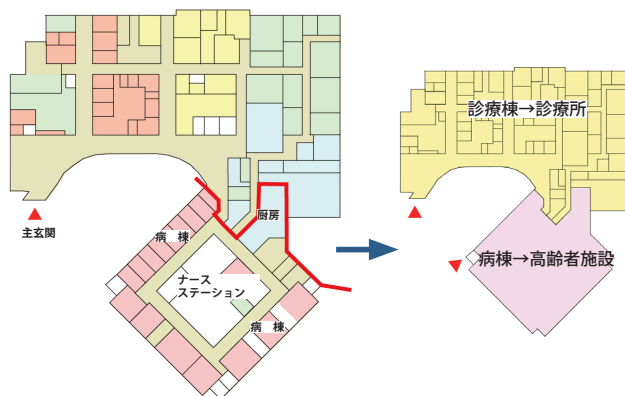


漆塗りの技法を応用したスタッフステーションサイン

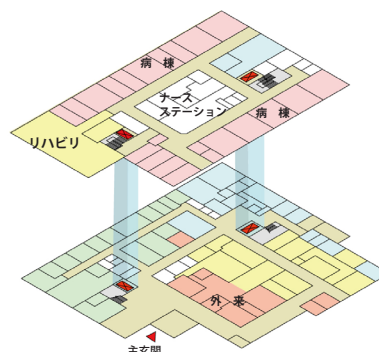


ホール・ホスピタルモール・広場の繋がり

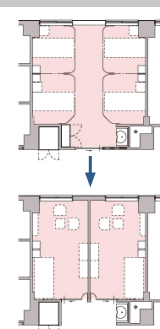
□青森市立浪岡病院
将来への可変性の提案：平面で分離を想定（図1）



□大崎市民病院鳴子温泉分院
将来への可変性の提案：上下に想定（図2）



4床室を1床室に転換
することができる



山河に接する自然と温もりのあるインテリアで迎える市民のための病院

—大崎市民病院鳴子温泉分院—

戦前に陸軍病院として誕生した病院が、戦後は「国立鳴子病院」として厚生省に所管替えした後、「町立鳴子温泉病院」となり、さらに市町村合併の際「大崎市民病院鳴子温泉分院」となったという、長い歴史を刻んできた病院です。

市の高度医療を担う本院を中核とする大崎市地域包括ケアシステムの一翼を担う病院として再整備されました。特別豪雪地帯に位置する人口5,000人程のこの地域では、冬場ともなれば最も遠い集落からこの分院まで来るのにも1時間近くかかり、地域医療における役割は大きなものがあります。

■コンパクトで効率性の高い病院

旧病院から1/3の規模に縮小しましたが、各機能をコンパクトにまとめ、効率的な診療が行える計画としました。小規模の病院ではスタッフが効率的に動けることが重要です。また、長く雪深い冬季のランニングコストに配慮し、断熱性能の高いサッシ、オール電化を基本とした設備を採用しながら、一部に温泉の熱を回収し給湯に利用しています。

■将来に対する可変性に配慮した病院

病棟は、今後の制度改正などにより



紅葉に映える黄色のタイルを採用した外観

構成が変わることも視野に入れました。スタッフステーションを中心に、南北にエレベーター・階段、東西に病室を配した病棟プランは患者像に応じたゾーニングが容易です。病室は2割が個室ですが、将来の転換も視野に、4床室を1床室にしやすいよう、また4床室は8㎡/床を確保しました。（図2）

■地域に愛される病院

外来の入り口の軒天やインテリアには地元産の木材を採用し、住民から親しまれる病院を目指しました。外壁の色は鳴子の紅葉に映える黄色を意識しています。

□建築概要

建 築 主：大崎市民病院事業
所 在 地：宮城県大崎市
病 床 数：40床（内、地域包括ケア10床）
構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地上2階
延床面積：3,367㎡
竣工年月：2021年4月



病棟スタッフステーション



4床室



共用部などに地元産の木材を採用

市街地に建つ大規模精神科病院の敷地内全面建替え — 浜寺病院



南側公園から樹木帯・街路がつながる西面メインアプローチ、キャノピー



開放的な外来総合待合

■訪れやすい地域に開かれた「森の病院」

—東西道路に面したダブルメインアプローチと2層吹抜けの外来総合待合—

敷地は東西とも道路に接道しており、東面では都市計画道路の事業が現在も進められています。既存の玄関は西面に配置されていましたが、建替えでは東西の道路をつなぐ街路のようなホスピタルモールを軸に東西にエントランスを設け、外来総合待合は開放的な吹抜け空間としています。中待合からは中庭越しに南側公園の桜を望みます。精神科外来の利用者に対するプライバシーに十分配慮しつつアプローチしやすく開放的で明るい外来空間としました。

—南側公園の緑を引き込む外構デザイン—

隣接する公園で建替えに先立ち進められていた治水・修景工事が2018年に完成し、桜の見事な親水公園は地域の憩いの場となっています。道路際の既存棟を解体した部分に設けた新しいメインアプローチはその南側公園の緑を引き込むように道路に沿って樹木帯と歩道を設けています。敷地内に設けた歩道は病院へのアプローチだけでなく、病院に隣接する保育施設から子供たちが安全に公園へアクセスするための動線として活用されるなど、地域の景観と安全に配慮した外構デザインとしています。樹種選定においては専門家による潜在自然植生、現存植生の調査を行った上で土地本来の植生に配慮した樹種を主体とし、環境圧に耐え手入れもしやすいよう配慮しています。地域や病院の象徴ともなっている南側公園の桜を敷地内にも点在させ、公園と連続する植栽帯が住宅街と病院とのバッファとなり、地域にも親しまれる「森の病院」となるよう計画しました。



二層吹抜の外来総合待合と街路のようなホスピタルモール



外来総合待合と総合受付



外来待合 中庭越しに南側公園を望む

浜寺病院は大阪府南部の高石市にある精神科病院です。1930年に開院され、精神科救急から慢性期、認知症まで幅広い精神疾患に対応する地域の精神科医療の基幹病院となっています。

■3期6年にわたる建替え工事

敷地内での全面建替えプロジェクトは2013年より計画に着手し、2015年4月の着工から6年余り経た2021年9月に外構工事を完成させ、グランドオープンを迎えました。

敷地は戸建住宅を中心とした住宅街の中にあり、南側は公園に面しています。開院以来の増床・増築により敷地いっぱいに建物が展開して一度に建替えるスペースが残されておらず、病棟においては計12病棟が4棟に分かれ配置されていました。計画では病院機能を維持する建替手順と、分散した診療機能・病棟の集約、将来の医療需要の変化も見越した配置計画を行いました。敷地北側駐車場へのI期「はなみずき」(108床の病棟)建設を皮切りに3期にわたる建設・既存棟解体を経て、病床のダウンサイジングを図りつつ全面的な建替えを実現しました。多様化する精神疾患と高齢化に対する確かな医療を提供するための機能を強化するために、療養・多床室が中心の既存病棟から、個室や個別的环境を重視した病棟とすることや、リハビリ部門の充実化を図りました。

■運用の変化に柔軟に応え多様な診療を支える病棟構成

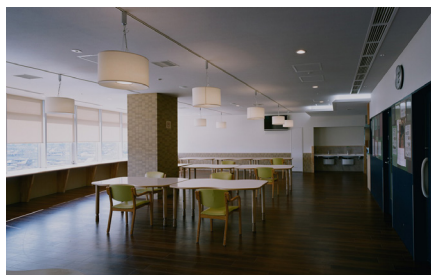
既存棟解体スペースへの病棟建設の繰り返しは建築の形態に大きな制約となりましたが、どの病棟においても全体が見渡せ見守りの行き届くスタッフステーションを中心に、大阪平野を取り囲む山並みや緑豊かな南側公園、外構や屋上庭園の木々の景観を取り込む食堂、共用部のある豊かな療養環境を実現しました。病室は多床室においてもベッド毎に窓を設け個別環境を大切にし、男女混合での運用もしやすい病棟ゾーニングにより多様化する精神疾患に対応できるものとなりました。

先に完成したⅠ期「はなみずき」は2フロアを1病棟とした2病棟4階建の独立した病棟で、限られた増築スペースに建ちますが、将来を見据え居住施設への転用も視野に計画しました。その独立性を生かし、建替工事中に流行した新型コロナウイルス感染症に対応するため、個室ゾーンを有し他の病棟・入院患者との動線分離も可能な「はなみずき」4階を軽症感染者の入院受入病床として転用運用されています。

住宅街の中に建つ浜寺病院は、今回の全面建替えにより自然豊かな外部空間との連続性を獲得することができました。そのことが治療の質の向上に寄与することに加え、開かれた精神科病院として地域に永く親しまれる存在であり続ける一助になればと思います。



独立した病棟のⅠ期はなみずき



外部空間を引き込む眺望のよい病棟食堂

□建築概要

所在地：大阪府高石市
 建築主：医療法人 微風会
 延床面積：23,394㎡
 病床数：642床（全体）
 竣工年月：2021年9月（グランドオープン）

以下、詳細

□さくら棟（Ⅲ期）2020年8月完成

病床数：300床
 構造規模：鉄骨造 地上8階
 延床面積：12,399㎡

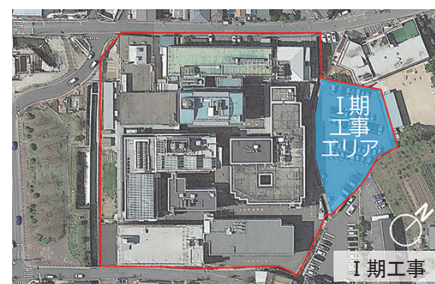
□けやき棟（Ⅱ期）2018年4月完成

病床数：234床
 構造規模：鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
 地下1階 地上6階
 延床面積：7,894㎡

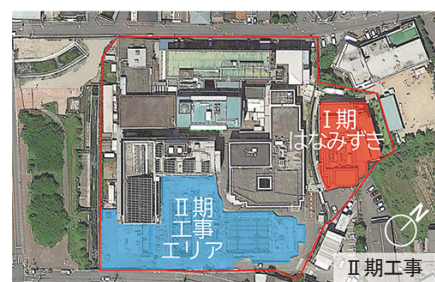
□はなみずき棟（Ⅰ期）2016年6月完成

病床数：108床
 構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
 地上4階
 延床面積：3,049㎡

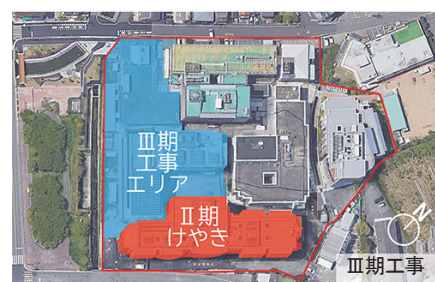
撮影（共通）：増田寿夫写真事務所



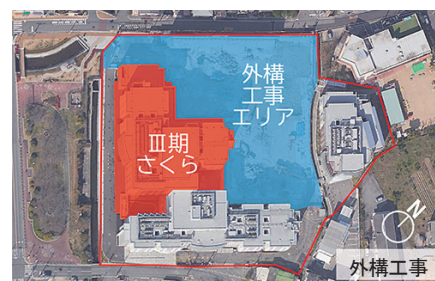
駐車場にはなみずき（108床）建設



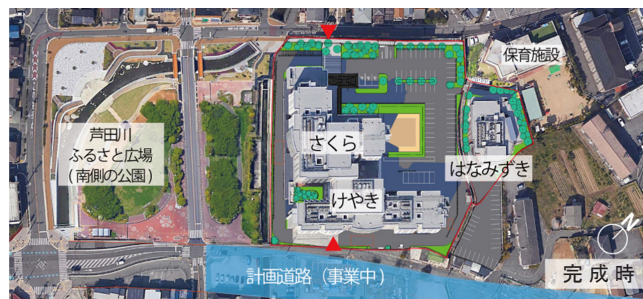
旧病棟解体後「けやき（234床・厨房・管理）」建設



旧病棟・診療棟解体後「さくら（300床・外構）」建設



旧病棟解体後、外構、エントランスキャンピ建設



2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
設計開始	既存病棟先行改修	Ⅰ期工事着工	はなみずき棟完成 既存棟解体工事	Ⅱ期工事着工	けやき棟完成 既存棟解体工事	Ⅲ期工事着工	さくら棟完成 既存棟解体工事	外構工事 グランドオープン



外 観

鳥取県の中部地域において、精神科病院と一般病院とを共に運用する医療法人が、精神科病棟の再編成と共に両院で共有・連携し合う機能を強化し、全体の再構築を行うプロジェクトです。身体的ケアを主とした一般病院が担う医療と精神科医療とがそれぞれ機能強化し、これまで以上に専門的医療に取り組める環境づくりと、相互的に関連する部門を拡充し、連携しやすい配置を全体計画の中で追求しました。

2021年、第一期としてプロジェクトの核となる中央棟が完成しました。精神科医療における外来診療の充実や在宅を拠点とした医療への転換を反映し、病床数の減少とともに、より精神科医療が地域の中で身近なものになるためのしかけとして、訪れやすいアプローチを二院の間を繋ぐような形態で実現しています。

病院の顔となるエントランスにはゆったりとしたホール・カフェ空間があり、その奥に落ち着きのある外来診療部を配置しています。また、一般診療と精神科の救急部門のアプローチを近接させ、検査部門や両方の診療科との連携を図りやすくしました。

在宅医療への転換を進める中でより充実させていくべき通所部門や地域連携部門は、中央棟の2階に配し、開放的な空間から直接アクセスできます。

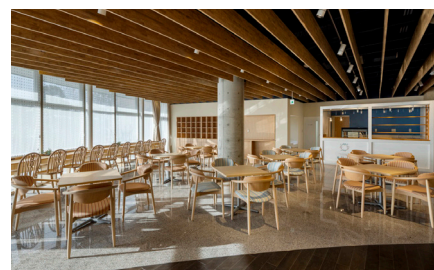
新棟に配置した病室群は、既存病棟とブリッジで接続した先でユニット的に機能し、既存のステーションから目の行き届きやすい配置として少し病状の異なる患者も同じ病棟内で受入れやすくすることを意図しました。今後、既存病棟の改修が行われ、病棟全体の中でこの新しいユニットが担う役割がどのように変化していくのか期待しています。

□建築概要

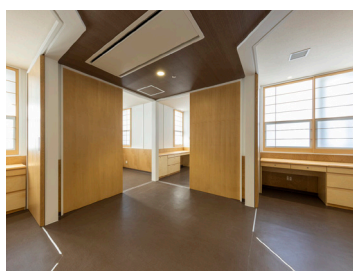
建 築 主：社会医療法人 仁厚会
所 在 地：鳥取県倉吉市
病 床 数：240床（整備後）
構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地上4階
延床面積：4,441㎡
竣工年月：2021年2月（中央棟増築）
撮 影：SATO PHOTO



エントランスホール



デイケア食堂と隣接するカフェ



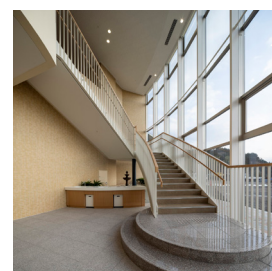
個室型4床室



見守りしやすい水廻りのある病棟廊下



多様なプログラムを行う通所部分



2階へつながる吹抜階段



新北館外観

福岡市内にある緑豊かな環境の中に佇む精神科病院の増改築プロジェクトです。東区唐原の海から少し離れた小高い丘の裾野にあり、住宅地の中に建っていますが、歴史ある名門ゴルフ場に接し、大樹や整った緑と芝が顔をのぞかせる立地です。1955年の開設後、本館が築45年を経過し、老朽化と共に療養環境の改善と厨房機能の更新を模索されていました。

病院周辺の宅地化に伴い、敷地全体が第一種住居専用地域の指定を受けています。建築規制が厳しい中、既存北館の奥のグラウンドに新病棟（60床）を建築し、本館も含め病棟再編改修を行うことで、病院全体の環境改善を行い、急性期から一般、認知症、慢性期まで個々の症状に対応しやすい環境を整えました。

新病棟は、中央のスタッフステーションを境に、一般（急性期）と認知症治療の生活エリアを分けた運用ができる仕組みとしました。各ベッドに窓を持つ個室的多床室では、ゴルフ場の豊かな緑、自然の風、匂いを取り込みます。また、低層病棟の特徴を活かした高天井の共用空間には、時間と共に移り変わる外光を取り込み、時間の流れや季節の変化を感じることができます。恵まれた環境を活かした治療の場を目指しています。



病棟食堂(西)



病棟食堂(東)



1階認知症デイケア



個室的多床室



全景(手前より南館 本館 新北館)

□建築概要

建築主：三善病院
所在地：福岡県福岡市
病床数：135床
(精神科120床、内科15床)
(増改築：60床／改修：60床)
構造規模：鉄筋コンクリート造
地下1階 地上1階
延床面積：4,356㎡(全体)
(増改築：1,810㎡／改修：1,578㎡)
竣工年月：2021年9月
撮影：bqdyne graphic
飛鳥企画



外来待合



外来待合



心理室

奈良・橿原市で精神科医療と認知症医療を中心に診療している「万葉クリニック」の新たな取り組みとして、児童思春期外来「子どものころセンター絆」が開設されました。

精神科外来待合とは少し離れた場所で、来院者の往来も少ない廊下の一角にゆったりとした待合いを設けています。外光が入りにくい環境ですが、

明るい葉が重なり合う壁紙と天井から壁面を照らす建築化照明を用い、広がりを感じられる空間としています。

診察室は大きさの異なる2室とし、奥のスタッフ廊下越しに外の景色を取り込むことができます。そっと訪れた方のプライバシーを保ちつつ優しく迎え入れる空間を心掛けています。

□建築概要

建築主：医療法人 南風会

所在地：奈良県橿原市

病床数：病院 240 床 老健 100 床

構造規模：鉄筋コンクリート造 地上 4 階

延床面積：12,810㎡（内 改修 65㎡）

竣工年月：2021 年 1 月

撮影：所員

共同建築設計事務所とSDGs

COLUMN

広報誌としての社外報は本号で 23 号になるが、当社では 1991 年より社内報という所員向けの記事を毎月発行している。この社内報を通じて議論の場をつくり、その集大成として社外報の記事をつくれないう案が挙がり、今年のテーマを『SDGs と建築』とし、所員に内外の建築のプロジェクトについて考える機会とした。

毎月所員 2～3 人に「SDGs と建築」という題で寄稿してもらうことと並行して、ここ 5 年ほどの間に竣工した物件の担当者に、目標 17 項目について何が実現できていたかのアンケートを行い、この回答を題材にディスカッションを行った。

この中では「医療施設、精神科病院、福祉施設を主な仕事としていることから、クライアントを通じて実現できていることが多いこと」が確認された

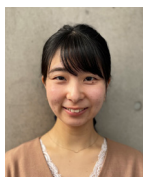
一方、クライアントとともに目標を実現するために、視野を広め諦めないでトライしていく姿勢が重要という意見が出された。

実は各目標の内容は設計者としてはいつも念頭に置いておかねばならないことばかりである。できていて当たり前とは言えないが、クライアントが志す目標に応えられる設計者であるために、実現できていないこと、実現すべきことについていつも考えながら研鑽し、各種の課題について諦めずトライしていく姿勢が必要である。

そもそも事務所の DNA ともいえる個室的多床室や分散便所は「だれも取り残さない」という考え方から発していると言えるが、時代を経て形にとらわれて精神が取り残されていないか……。共同版 SDGs に向け、継続的に議論を行っていくこととなった。



17 項目のテーマに沿ったアンケートの表（上部）を元に、ディスカッションを行った。

宮岡 喜和子
(2020 年入社)

私の原風景は幼いころにお世話になった地元の総合病院です。年季の入った薄暗い病院でしたがスタッフの方々の優しい雰囲気が充満した空間は20年も前ですがしっかりと覚えています。その後病院は建て替わり建物自体の印象はがらりと変わりましたが、穏やかな空気感がそのまま残っていることが印象的でした。

建築に興味を持ってから有名建築家の建築めぐりをしてきましたが、どの建築を見ても私の建築に対する根底にある考え方は「建築の主役は生活する人であること」です。建築は完成後建築家の手から離れ、クライアントとともに歩んでいきます。生活する人を体現する建築はその人の雰囲気

や大事にしている芯が建物に現れていて、愛着を持って大切に手入れされていきます。今思うと地元の病院もスタッフさんや地域の愛着とともに歩んできて、それが新病院にも受け継がれたのだと思います。そこで暮らす人や働く人の生活のなかに溶け込み、ゆったりと構えて支え続けられる、黒子のような建築が理想ではないかと考えています。今までクライアントが歩んできた道や考え方、移転ならば前の建物が地域で育んできた文化や人との繋がりといった建物のオリジナリティを引き出して深層まで理解して、提案ができる建築家。「私らしさ」よりも「そのクライアント＝建物らしさ」が詰まった提案ができればと思います。

鈴木 杏南
(2020 年入社)

私が建築家を志したのは中学生の時でした。そのころは、なんとなく多くの人の目に触れる大きなものを造ってカッコいいと言われたい、という程度の考えでした。その建物がどのような用途を持つか、中でどのように人が過ごしているかなどは特に意識していなかったように思います。

大学では、計画系の研究室に入り、高齢者施設や障害者施設について学びました。

私の恩師はユニットケアについて長年研究しており、特養は『施設』ではなく入居者が生活する『家』である、と話していたのが特に印象に残っています。

そして、実際に見学や調査などで施設を訪ね、その中で生活する方々のことを知りました。入居

者の方々は私たちを見ると、不思議そうな様子や嬉しそうな様子を見せており、施設での生活は私たちにとっては当たり前の、人との関わりが足りていないのだと強く感じました。『家』としての環境にはまだまだ追いついていないと考えています。

このように、医療福祉の分野は他の施設と比べて暮らす方や家族、働く方、地域の方など多くの人々の生活に直結しています。単に建物を造るのではなく、人の生活をつくるという意識を持って建築に向き合いたいです。

特養のユニット化の実現は、研究者や設計者の尽力があってこそでした。私も設計の立場から、そこで暮らす方々の生活と福祉施設の未来をつくる一部を担えたらと思います。

木戸 裕里子
(2020 年入社)

設計という、最適解を導き出すことは、数学の問題を解いているようで、面白いと感じます。病院建築は他の用途と比べて、多くの制約があり複雑ですが、悲観的にならずに前向きに取り組むことが最適解に近づくための一歩だと思います。仕事として建築に携わるようになり、共創することの面白さを感じています。私達のクライアントは、医療・福祉のプロであり、私達は建築のプロです。プロとプロがぶつかり合っの議論はわくわくします。

大学に入学して半年が経った頃、授業で「空間のデザイン」という課題がありました。沢山の模型が並ぶ中、私が提出した模型が教授の目に留ま

り、教授がこんなことを言っていました。「手のかけたものこそ伝わる」と。今、自分達が熱意を持って伝えようとすると、相手側も応えてくれるのだと実感しています。使う人が建物に愛着が湧き、それが質の高い医療・福祉の提供に繋がれば良いと思います。

街に良い医療・福祉があれば、人々は安心した暮らしができます。風景の一要素として存在する建築物ですから、地域に溶け込んだ美しいデザインであるべきです。私は、街の人からも愛される建築物を創っていきたくと思います。自分自身が建築を楽しみ、人々の支えとなれる建築家を目指します。



株式
会社

共同建築設計事務所
Kyodo Architects & Associates

www.kyodo-aa.co.jp

□本社 〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町4-10
□東北支社 〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-4-24
□関西支社 〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-17-18
□九州支社 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-5-16

TEL 03-3359-6431 FAX 03-3359-6449
TEL 022-722-0915 FAX 022-722-0917
TEL 06-6195-3621 FAX 06-6195-3622
TEL 092-473-7370 FAX 092-481-3298

